



## 救急基金の歩み

# 応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、この10年間に6,235名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上を図るためには救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、近年住民の応急手当への関心も高まってきています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積

立て、その運用益で応急手当講習会で使用する資機材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

## 事業の概要

### <平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成する為の講習会の開催

### <平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

### <平成10年度～平成13年度予定>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資機材の寄贈

## 寄附金募集事例紹介

# 諏訪広域消防本部

諏訪広域消防本部は、長野県の中央にある八ヶ岳から諏訪湖の周辺に位置しています。古くは生糸、現在は精密機械を中心としたハイテク産業が盛んな地域で、諏訪湖・八ヶ岳・蓼科などの観光地が知られています。

諏訪広域消防本部は、平成11年4月1日に、岡谷市・諏訪市・下諏訪町・諏訪南行政事務組合（茅野市、富士見町、原町）の2市1町1組合の消防業務が統合して、発足し、本部は岡谷市にあります。

発足後は、あらゆる災害に対応するため、梯子車を管内どこでも出動できる体制を構

築するなど各署間の連携を強化することによって、出動体制の確立を図っております。また、救急活動については高度な救命処置ができるよう、救急救命士の養成及び高規格救急車の導入等救急高度化事業の推進に積極的に取り組んでおります。救急車出動要請の際、救命士を搭乗させた高規格救急車の対応により、傷病者への高度な救命処置ができるようになりました。

応急手当の普及については、傷病者の救命効果の向上を図るため、住民向けにわかりやすい応急手当広報誌を救急医療週間に配布し、中学生から年配者までの幅広い年齢層を対象とした普通救急講習会を年81回も開催し、延べ1,500名もの多数の方々に参加していただきました。

救急基金箱は消防署と医療機関に設置されており、主な寄付者は、病院を訪れる患者さんや消防署を訪れる住民です。

今後も引き続き住民サービスの向上に励み、住民の方々が安心できる街づくりをしていただきたいと願っております。また、応急手当の普及啓発に対する熱心さに感謝し、ますますのご活躍、ご発展を心よりお祈りいたします。

